

会 議 録

会 議 の 名 称	令和４年度第６回天草市総合政策審議会
開 催 日 時	令和４年１０月５日（水）１０：００～１６：３０
開 催 場 所	天草市役所２階 庁議室
議 長 名	玉村 雅敏
出 席 者 氏 名	玉村会長、田中副会長、江良委員、小川委員、小田委員、木村委員、澤田委員、山下委員
会 議 次 第	１ 開 会 ２ 会長あいさつ ３ 報 告 （１）令和４年度第５回天草市総合政策審議会会議録について ４ 議 題 （１）第３次天草市総合計画の策定について （２）第３次天草市総合計画の答申について ５ その他 ６ 閉 会
審 議 内 容	
（１）第３次天草市総合計画の策定について ●「計画の策定にあたって」、「天草市の概要」、「天草市を取り巻く社会情勢と課題」、「基本構想」について ○事務局説明 （会長）基本構想までのページで気になったことや改めて論点としておきたいというご指摘ありましたらお願いいたします。審議の前提として、今日はできるだけ審議してきます。何かこれはもう少し直したいという指摘を深く考えていただければ、答申はもう少し先ですのでそこまでに直していただくとなります。今回は、論点を出しておくということでも構いませんのでご指摘いただければと思います。 （委員）見直しをされ、言葉の表現を少し変えるだけで伝わり方が全然違うという印象を受けました。これまで議論を進めてきた中で、とても伝わりやすい総合計画になっているというのが第一印象としてあります。ありがとうございます。一点、言葉のニュアンスが分かりづらいつと感じたところで「つながり稼げるまち」の説明文で最後の３行目にある「生産性の向上やブランド化によるまちとなっています」の部分が少し伝わりにくいというか日本語がおかしいような気がしますが、こういった意図があつてこのように表現されたかをお聞きしたいです。 （会長）多分、文字が落ちていると思います。理念の５番にあるようなことの表現が最後までまとめていくことだと思います。産地力が維持向上されているなど、そういったことが本当は言いたいと思います。 （事務局）すみません。ブランド化による品質の向上っていうところになります。文章を含めて、修正させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。 （委員）やさしさと安心のまちでは、分かりやすく修正されたと思っています。あとは、	

やさしく暮らしているということの捉え方になります。下の文章に周りの人と一緒にできることは一緒に共同できるやさしく暮らせるまちとなっています。そのやさしくというところをどのように捉えたらいいのでしょうか。

(会長) はい。まずこの点、気になるってご指摘もありますし、はい。あの一、もちろん、もうちょっと深く考えていただいたら、ちょっと、とはいえ、こういったこと、(事務局) 地域でお互い助け合い、支え合い安心して暮らせる。自分でできること、自分で周りの人と一緒にできれば一緒に連結させるということでやさしく暮らせるということが、やさしくのポイントと思っています。本当にお互い支えあうといえますか、共助の部分になります。

(会長) 味わいがある言葉ではありますので、曖昧なことではなく、今のようにお互いになど気持ちの上でとか何か意味があるようにしていくと思います。これはだめだと言って言うのではなく、味わいがあることを出していただいたので。ぜひこういった気持ちで言葉を使って伝わるようにしていただけたらいいかと思います。

(副会長) 一点気になったのは、理念のところアウトカムも意識されていると思うのですが、何々ができているという表現が多用されていて、日本語としてどうかと思います。例えば、安心して子どもを生み育てる社会ができているは、社会はできると表現できるかと言うような印象があるので、もう一度日本語を整えて頂きたいと思います。きちんとした日本語、美しい日本語を使っていただければと思います。アウトカムを意識するとどうしてもこういう言葉になってしまうと思います。私たちも PDCA を回す時は何ができているとかという風に言ってしまいます。目標像なのでこういう状態になっているって言うことがわかりやすい言葉にしていただければと思います。あと、将来像です。きちんと一枚ものの絵にして頂きたいので、デザインができる人と一緒に作ってもらいたいと思います。少なくとも市民の皆さんの目に触れる前にはデザインができる人に形を整えていただいて、この絵が30年後にはより良い形になって、天草らしく固まっているのが理想だと思います。そこまでお付き合いして頂ける地元のデザイナーの方に発注していただけたらと思っています。出来て終わりではなく。

(事務局) 確かに私たちもつい使ってしまう言葉を載せているところがあります。美しい日本語と言われてドキッとしました。美しい日本語を私たちがどれだけ日頃から使っているのかなということもありますので勉強させてください。主旨は変わらないような形で皆さんにより伝わりやすくなると思いますので。ありがとうございます。

(委員) これだけこれまでの意見を真摯に言葉として書いていただいて本当に分かりやすくなったなと思います。あと、私は、人口の減少の数字や税収の減少、それに伴う歳入歳出の方の減少と相当な何ていうか決して明るい未来ではないということだと思います。コンパクトシティになっていき、より動きやすくなるよということであればいいのですが、やはりこれから皆さんがいろんな困難が待っていると思います。その中で一番幸せを実感するには、もちろん安心で自然があって、稼げるということが本当に天草の魅力だと思います。稼ぐために学んでいくということが非常に大きい要素だと思います。学ぶというのは例えばえっ

と、生涯教育も重要ですが、自分のキャリアを変える、自分の得意な部分を変える。岸田総理も5年間で1兆円を出すというリスクリングみたいなところがこれから重要だと思っています。自分のキャリアを本格的に変えるというところの手伝うことでそこから稼げる、効率性ある、付加価値を生み出せる人材が作っていければ、そこから幸せになると思いました。つまり、ともに学び、ともに育つというのはきれいですが、もう一歩踏み込んで本気で自分のキャリアを人が喜んでくれ、自分の実感ができる新しい自分の技術を身につけるぐらいの何か、そういうこともできる支援するまちだということがあれば移住する方や若者に勇気を与えてくれると思います。今もプログラミングをやっているお母さんとも話をしますが、全然違う分野でもそういう場があるから次が見えてくるという期待が持てると思えます。やはり学ぶが全ての原点だと思います。このことに対して政府があれだけ言っているので予算もつくということからすると、きちんとデジタルや自分の特性を引き出し、全然違う仕事につけるために学ぶことができるということを少しく強調すると、より具体化でき、後ろからきちんと押していただける形になると思いました。

(会長) 確かにご指摘の通りです。私も少し意見加えますが、そもそも教育と学ぶということは、実は違うことということです。学習とか学ぶってことに関してしっかりといろいろな意味で挑戦できることを提供してくとそれが生活の中で学べ、すごく大きいことだと思います。このことがしっかりとできていると新しいビジネスが生まれてもくるだろうし、キャリアも変えられると産業育成にも役立つと思います。後で発言しようと思っていましたが、公務員の皆さんもその学ぶということがかなり重要なことで、色んなことを経験しながら挑戦したいと思える役所であればなればなるほど、良い地域になるので、そういった意味合いでもう少しこの味付けをしていただいて、そのことを支えるような施策とか政策をきちんと位置付けるということができればと思います。

(事務局) 委員おっしゃる通り、学ぶことによって様々な展開が見えてくるものと考えています。現在、私たちも大学との連携の中で「旅するキャンパス」という京都芸術大学の先生や現役の講師に来て頂き、様々な講座を実施しています。また、産業政策課でもIT関係やプログラミングの教室などを開いております。ただ、参加者をどうやって募るかというところが一番の私たちの課題として捉えています。参加者を募るということは、その講座をより魅力あるものにするという部分になり、やはりこの学ぶという環境づくり、土台作りが一番必要ということも考えています。学びの場の確保と学ぶ人の確保に努めるということは、いかにこのリスクリングなどへ理解を深めていくかが今後は重要と考えています。生涯学習のところでもそういった講座等を開催するによって、このありがたい姿の「ともに学びともに育つまち」へつながると思います。

(委員) ありがとうございます。ドイツでは、ハローワークを中心にキャリアをどんどん変えているという事例をテレビで見ました。ある種、半年なら半年、きちんと次のキャリアに向けてくような支援があると数段年収が上がるという風な事例がドイツでは取り組まれているという内容でした。強制力を持つというのはなかなか難しいと思いますが、ある程度そのような道がないとそのまま終わってしま

うという現状になると思います。先ほどの大学との連携の中でも、書くことは難しいかもしれませんが、もう少し、お互いに稼いでいくというところの大学との連携が踏み込めるといいと思います。自分自身を伸ばすというよりも自分が稼げる力、付加価値をそして自分の今の職業が10年後に残っているのか。そういうことまで含めて考えるともう少し危機感でもありそれに対する希望を同時に与えられる書き方があると理想的だと思います。難しいと思いますが。

(会長) この観点から考えると若干曖昧になってと思います。すべてになります、このありがたい姿を受けて政策群があるということを考えていくと、例えば、産業育成や稼げるということに関しての能力向上に関してはどこで受けているのかと曖昧だと今思ったところです。そうすると、悩ましいところですけど、大学連携というと大学等との連携って言うとなんかぼやとしてしまいます。何のため大学との連携っていうのはなんかわかりにくくなる。政策としてはそういう言い方だったかもしれませんが、そのこの値の主旨とかは大学には限らないことだと思いますので、明確にする必要があるのかと思ってしまいます。大学生が色んな経験を天草でしていただくことはすごくいいことですが、それで止まってしまったら挑戦したいことにはならず、社会貢献的なイメージだけで止まってしまう可能性もあります。言い方が難しいけど。何かそういった部分をより明示的にしていくことを考えていただきたいと思います。

(事務局) 大学との連携も含め、政策のタイトルにつきましては、後ほど説明を予定しておりましたが、今私たちも悩んでいるところでもあり、再度検討を行っているところです。

(会長) ぜひご検討ください。曖昧にするのではなく、割り切った天草側のスタンスを明確していたほうがいいと思います。あと、委員からのご指摘のようなことで、天草市で稼げる能力を一人一人上げていくために大学と連携もちろんあると思いますが、稼げる能力や色んなことへ挑戦する新規事業創造などいろんなことをやるために学ぶということをきちんとやる。そのために外部連携、専門家と連携をやるということにフォーカスしてみてもいいかなと私は今聞いていて思いました。

(事務局) リスキリングに対して、国が1兆円に取り組むとの話が出ており、流れが来ていると感じたところですね。私達もその流れに乗り遅れないように、リスキリング、社会人の教育と言いますかもう少しはっきりできれば盛り込めるといもしてはいると思っています。情報を入れながらどこまで詰められるか分かりませんが考えながら進めていければと思います。

(会長) ぜひお願いします。よく2040年ぐらいには今の仕事が半分はなくなるみたいなことが言われています。逆の言い方をすると、仕事の半分以上を皆さんが新しいものを作っても良いことなので、そういうことを支援する地域はどんどん人も伸び、産業も伸びていくことになります。第3次総合計画でこのことに取り組まないチャンス逃すことかもしれません。リスキリングもそうですし、自らのキャリアを変える、こう稼げる力を上げていきたい、そういった事を皆さんが思えることは持ってもらおうということがすごく難しいのですが、それを思った人がどんどん挑戦してもらおうということを意図的に言った方がいいかなと思います。あ

と、今のあたりにも関わることでありますが、事務局を市役所の方をお願いしているのではなかなか書きぶりがどうしてそこは曖昧になりやすいことが職員力というところでは。行革にもなりますが、審議会としてはもっともっと明示的に行った方がいいのではないかと考えています。これからは人が重要です。今まで重要でしたが、情報がどんどん共有できるようになっていて、誰とやるのかが重要なことになってきます。いろんな意味でこの人がいるからこれができるということをもっともっと加速してくると思います。そういう時に、市役所の職員の力やその人たちがどういう人達なのかが重要な要素です。天草市の職員の方は、一緒に考えてもすごく面白いし、もちろん、審議会の皆さんも面白いんですけど。逆に言うと厳しいことも言え、安心してこの人達と一緒にやれるなと思っているからこういう議論ができると考えています。行財政運営の話を効果的に書いてありますし、挑み挑戦する行政経営に取り組むまちとありますが、このところに職員の力のことを書きましようとは私は言いたいなと思ったところです。限られた人員で高い成果が求められていることが、これまで以上に加速するわけです。人口減少社会は、人口が減るだけではなく、職員の数も減らさないといけません。しかし、やることはたくさん増え、難しい課題も増えてきます。ということは、職員の皆さんには、限られた人員で高い成果を出せと言われながら、勤務時間もきちんと管理しないといけません。かなり難しいお題を投げかけられるわけですね。そういった背景をしっかりとった方がいいと思います。そうすると職員能力向上だけではなく、働きがいも重要です。この市役所で働いて、いいなと思うかどうか重要な要素で、成長とか挑戦できると実感を職員が持っているのかってというのはこの天草市という地域にとってすごく重要だと思います。市役所で働いてもしょろがない、やりがいがないと思うと全てに影響してしまうので。あと、ワークエンゲージメントみたいな言葉もあって、モチベーションとメンゲージメントとしては、ここの組織で働いていい、この地域のために役立つかそういう気持ち持っているのが企業経営でも重要なわけです。公的な仕事をやる職員のことにしてみれば重要なことです。行革の中で少し触れればいいのかではなく、逆に明示的に言って、そこにこそ逆に投資するべきだと私は思います。

（事務局）ありがとうございます。私たち市の職員は、いわゆるまちの方向性を決めていく職になりますので、会長がおっしゃられたとおり、やはり能力をどんどん磨いていく必要があると思っています。高い経営意識をもったというところですが、主語は職員、行政ですので、行政全体がその高い経営意識を持ったというところで表しているということになります。基本計画になりますが、職員の人材育成にも触れさせていただいています。職員の人材育成の中で、職員自らが主体的に能力開発に取り組みや働きがいを持って挑戦できる人材育成に取り組むということに記載しております。ここで、職員力の強化ということに記載しているということになります。職員という言葉あまり書くと全体が高い経営意識を持つということで表現しているとご理解いただければと思います。

（会長）理解はしていますが、書いた方がいいです。逆に書きましよう。あらゆる社会に対応できる行政が出来るという事は職員の個々の能力が重要で、そういったこと

に対応できる職員の人材育成にも取り組みますということを語っていただくといいと思います。人が自分事として考えてもらって、みんなで挑戦していけるかどうかというのは出てきますが、市職員の部分は遠慮がちなので、きちんと挑戦することを明確にしていくことで、ありがたい姿につながっていくと思います。この辺りを見ていただくと良いと思います。あと、限られた人材で最大の効果を出していくということが求められていますということも書いていただいて、そこがつながるからこそ、政策になると思います。そのことをどうこういう人がいたら、今はそういった時代ですと堂々と認めていかないといけません。

(事務局) ありがとうございます。決して遠慮しているわけではありません。ありがたい姿を目指す市民の生活が良くなっているということ踏まえて、市の行政職員がどうなっているという将来像をどう表現できるか分かりませんが、人材育成を行いながら目指す職員像を上手く表現できればと思います。

(会長) 遠慮なくやりましょう。この分野は遠慮がちになりやすい分野なので、だからこそ職員はどんどん挑戦するし、だからこそ、いろいろなところに行っているいろんな事を勉強して来いと言えるようになります。この審議会は、天草市の行政を見ている立場としてもやはり職員の能力をいかに良い状況に向けていくことだと思います。もっともっと挑戦できる状況を作ってくともっとよくなると思いますので、節目としての審議会からの意見として進めていただくといいと思います。

(委員) 私も同感です。これからこの総合計画は、市民や職員皆さんの目に触れるものですよね。ですから職員力の向上や育成など組織力の強化について書いておけば、意識付けにもつながると思います。職員の中でもムラが出てくるとしますので、足並みを揃える意味からもきちっと表現として残すことが大事ではないかなと思います。ご検討ください。

(会長) 審議会の今後のあり方にも影響するので、評価の指標に関してお願いし、修正していただいています。この総合政策審議会は総合計画の策定だけではなく、総合計画の進捗管理を評価する役割もあります。そのときにどう評価をするかということ、これまでも審議会の中でやってきたことをご記憶にあるかなと思いますが、指標を見ながら前に向かっていくかどうかを確認することによって審議会としては議論するわけです。すなわち、天草市としては、2030年を見据えています。そこに向けてどのように前進しているかどうかを指標において評価していくことになります。まっすぐな道をそのまま歩いているわけではないので、試行錯誤をしながら前進していく中で、どうしたらそこに向かえるかということ聞き、やっていくことになります。その時に物差しとしての指標を持っておくと議論がしやすくなります。このことを総合計画の中で語るということも重要なことだと思います。やっていただいたわけです。最後のあたりで、毎年見直しを行い、必要に応じて改定を行いますということに記載していただけたらいいかなと思います。

(事務局) ありがとうございます。最後の毎年見直しを行っていくところは現在も毎年見直しを行っておりますので、このことを記載するという事ですよろしいでしょうか。この部分は付け加えていきたいと思います。評価につきましてもできるだけわかりやすく入れ込んでいきたいです。ありがとうございます。

●「前期基本計画」：『政策24～政策28』

○事務局説明

(副会長) ハード面が大事だということはよくわかります。あと、テクニク的なものとして考えると、良好なまちなみの形成へ歴史や自然などのことを書き加えていただければと思います。崎津の世界遺産も含めて文化的景観の評価をしていただいたのかなと思って非常に嬉しく思っています。せっくなので、関連する SDGs のゴールマークのところに 14 番の海や 15 番の陸の豊かさを加えていただけたらと思います。SDGs の掲載はアピールポイントですので、やっぱり景観の部分はすごくわかりやすく、国土保全を表していると思いますのでポイントだと思います。ハード整備と景観が繋がっていることがすごく、わかりやすく示されると思いますので検討をお願いします。

(会長) まちなみというと、どうしても陸の人が住んでいる世界を思いますが、もちろん海洋の景観も重要ですし、それを維持するには人の生活も重要で、山があって、海もあってことは影響し合うものですから。できるだけマークを減らそうということだったかもしれませんが、入ってくる範囲だなと確かに思いますのでご検討ください。象徴的にここで言うのは 1 個のことだったりしますが、さらに解釈していただいて、他のところでも同様なこととして確認していただき、修正していただくことは構わないと思います。

(委員) 情報化の推進での施策計画 1 では、情報通信環境の整備っていうところに、追加として「携帯電話不可エリアの早期解消と 5G 基地局整備の働きかけを関係機関に継続して行います。」がありますが、ここの成果指標は載せてないということで大丈夫でしょうか。

(事務局) 携帯電話につきましては、民間事業者が中継所を建てていくことになります。そういう中でも天草のように採算性の合わないところは、一部区間で不可エリアにより切れていくという状況が発生します。そういうところは国や事業者に要望し促しているというところがございます。直接私達の方で、この基地局を何基立てるとかそういうのはできませんので指標には載せておりません。

(委員) それでは、どれぐらい整備したいということがまずは目標としてあった方がいいのかなと思ったのでそこをお尋ねさせてください。

(事務局) 総合計画の個別計画として、地域情報化計画を策定しております。その中には、その要望については記載しております。ただ、それが解消するかどうかはわからないところです。仕組みとして総務省から年に 1 回調査が来ますので住民側から要望があった場合は挙げております。

(委員) 今の天草市としてどのような情報設備が必要っていうことを設定する必要があると思っています。要望が上がったので打診はしてみますというような形で、この政策の中に入ってしまうもったいないと思います。市としてできるところが、光ファイバーケーブルの部分として市として確実に取り組み、ここが一番重要というのであればここだけの記載にとどめた方がいいのかなと思いました。市として、この 5G を必要という設定がなされていないのであればあえて記載する必要はないのかなと感じました。

(会長) 前提としては、成果指標は全てを押し量ることはできないので、象徴的なものを測っていくものになります。もちろん測ってそれで状況を説明できるものはより

良いものだと思います。様々な観点でもう一度目指したいこと、やりたいことを掲げた上で測れるものをどんどんと検討していただくことは、今後ともお願いできればと思います。

●「前期基本計画」：『政策１～政策１０』

○事務局説明

（副会長）すごくわかりやすくなりましたし、関係する課がすごく絡み合っているのがよくわかるようになったので素晴らしいと思いました。あと、先ほども申し上げましたが、SDGs マークの使い方が若干不揃いかなと思っています。行政の皆さんの癖だとやっぱり担当するとつけたら損みたいことがあると思いますが、SDGs マークについてはつけた方が得です。SDGs マークをもう一度きちんと読んでもらうと分かると思いますが、連携するごとにポイントが高くなるので、ちょっとでも入れている方が得だと思います。そういう意味で直していただけたらというのが一点です。また、指標の数値はすごく大事な数字で、アウトカムはやっぱりこの数字が出てこないといけないのですが、最近の傾向としてこの数字に振り回されて職員の皆さんが疲弊しているのではないかというのが一番ポイントだと思います。やっぱり人が大事です。なので、この数字を達成するためにいかに持続的な組織が構築されているか。この仕組みができていくのかについて配慮して書いていただければと思います。単に数字を追うだけの働き方ではなく、多様な協働は認められるというような書きぶりをしていただけたらいいなと思いました。

（会長）補足というか私の意見も加わしていくと、SDGs マークについては横串で考えて点検していただくことを行ったらいいと思います。今とりあえず。たとえば、１３番はどこどこについているのか、これはないのか、なくてはいけないかななど、それは企画的な部署が見る役割だと思いますので。ある部分遠慮しているところもあるといいますから、そういった部署間連携を促すためのマークでもありますから。今回の総合計画はSDGs 推進計画を統合したものでもあると思いますので、あと、指標については、もちろん先生のご指摘の通りだと思います。すみません。逆に違う質問になるのですが、決してこの部門とかこの理念のもとのことだけではないのですが、目標値を設定されている根拠は説明可能になっていますかというところ。これぐらいでいいのではないのみたいな塩梅にも一見見えますし、ゼロにするとしたらすごく正しいのですが、ゼロにはなかなかできないことで、発想としては正しいのですが。例えば、外国人の方のそういった不満度をゼロにするって今回ありますが、現実的な数字ではない気もします。正しいことを主張されているので間違っていないんですが、目標値をどのように設定されているかというところ。説明が可能になっているのかどうか気になります。その辺はどうでしょうか。

（事務局）今回、目標数値の設定根拠につきましては、具体的に目標設定の根拠に作成しております。根拠を作成し残していくことで、引継ぎもできます。

（会長）ありがとうございます。審議会としては、１個１個これでいいのを本当は確認しないといけませんが、時間がかかりかかりますので場合によっては、今日ご発言いただいてもいいですが、それに限らずご指摘いただきいただければと思います。

(事務局) 成果指標一覧につきましては、ロジックモデルとなっていない書き方や「ありたい姿」の実現に繋がっていくのかというところを再度調整し、根拠となり得るところで作り上げていきたいと思っております。

(副会長) 関連して、SDGs ゴールの1番から17番を並べて、星取表みたいにして並べ、それをバランスよく配置されているかを示し、武器として使っていくとも大切だと思います。要は、天草市は、SDGs 推進都市をやるときに、ここの政策を強めにやっているというアピールするためにも使えるので、アウトカムがきちんと説明ができるのかということと、SDGs のどこの部分を担っているのかを強い弱いがあっても仕方がないので表記されるといいと思います。それを上手に使うことがポイントだと思います。アウトカムの話は、上天草市の地方創生ずっとやっていますが、行政の方は数字でコントロールされるのはわかるのですが、民間や市民は所詮、数字だろうと言いがちです。例えば、コロナで観光関係の数字が軒並みアウトになったときに、コロナだからできませんというのは理由になりません。ただ、そのときに担保するためにも、先ほど会長がおっしゃったみたいにどの政策でどういう考え方でやっているのか、だから数字が達成できませんでしたっていうことは理由になります。だからきちんととそういった説明が立つように数字も大事ですが働き方もきちんと組んでいます、職員も市民も一緒になって協働して頑張っていましたけどこういうことでできませんでしたって理由だと成り立つと思います。単に数字だけが上げているだけではそれが担保できないので。そこを市民に説明するためにはきちんと人が大事っていうのを入れておきましょうというのが必要だろうと思っています。コメントです。

(委員) まず、成果指標の設定の仕方、課題があるなと感じた部分があったのでお尋ねです。成果指標の中で外国人居住者が天草での生活に満足している割合(不満・やや不満)というところの設定について、目標値として0%にすることは難しいのではないかと感じました。この不満、やや不満っていうのはコントロールができない部分と感じたので、満足している割合を増やすっていうふうに設定した方がいいと思います。あと、行政としてやや不満とか不安をなくすっていうふうに設定をしてしまうと、自分たちの会社でもそうですがクレームをゼロにするや、ネガティブなことを目標にしてしまうと現場のスタッフとして取り込みにくいところもあり、満足度高めるぞーというような目標設定の仕方の方が前向きに取り組みやすいという印象があるのでご検討いただければと思います。

(事務局) ありがとうございます。確かに前向きな取り方がいいと思います。私達は、その不安がある人を減らせればよくなるという視点から設定いたしました。確かに、逆にずっとこれが0%じゃなくて残ってしまえば本当に大丈夫だろういうところがありますので検討いたします。

(委員) 今目標値を0%というところに私も感じていたのですが、100%になっているところもあります。学校が(楽しい・まあ楽しい)という二つを合わせてというふうな補足がありますが、それにしてもなかなか学校が楽しいっていう生徒が様々な事情もあり、目標として達成するのは難しいと思います。トータルシステムに関してもその定性的なところで評価を100%というのは、何か目標値として難しいと思いました。あと1点、お伺いしたいのですが、給食ですが、子供た

ちの体のこともそうですし、重要だと思っています。ある地域では、完全無農薬なものを給食に率先して提供しているところもあります。その分当然コストが上がるのですが、その差分を行政側が負担したりしています。無農薬や有機、体にいい栽培をということで新しい農業として活性化を担っている地域もあります。地産地消の部分も含め、どのようなものを積極的に提供し、情報開示もされているのでしょうか。

(会長) まず100%の話は、ちょっとご検討ください。志は正しいし、こうあるべきですけども、なかなか調査とメディアができないようなことを掲げるのも非現実的だと思いますので。現状維持をするためにも難しいことに取り組んでいるかもしれないので、それはきちんと根拠を持っていただきたいと思います。そもそも外国人の1.4%は誤差みたいなものかもしれないので、なくしたいという気持ちはわかりますが、現実的に変わるものを見ていただいて、前進するか、ないしは現状維持するかってことを考えていくといいと思います。二つ目の地産地消の話に関して、テクニカルに可能かの質問だと思います。

(委員) 天草市の学校給食は、とてもいい取り組みをされているので、せっかくだったらこれをこんなものを使っているのかという情報公開されているのかどうか、もしなかったらそうされた方がいいのではないかなということも含めての質問です。

(事務局) 情報開示では、献立を市のホームページでどなたでも見られるように公表しております。また、天草特有の「お魚給食」という給食を設けさせていただき、地産地消の推進ということで取り組んでおります。水産振興課で予算化し、食材を給食の方に提供していただいています。「お魚給食」は、年8回ほど実施し、天草をPRするためにも一つとして、子供たちにお魚を好きになってもらうということもかねて、推進をしているところです。あと、昨年からは天草大王や和牛も取り入れるなど、年間に全部トータルすると13回ほど地元産の食材を利用した給食の献立を作成しているところです。

(委員) この地産地消についてと安全な学校給食というのは皆さんが望んでいるところだと思います。先ほどその食材をどういうものを使っているのかっていうのは給食メニューでもですが、もう少し情報開示などがあれば、市民の安心や地産地消にも繋がると思います。

(委員) 大学等との連携で、SDGs マークでイノベーションを起こすみたいなのところがついてないというところからしても、もう少しこの大学との連携の最終的な結果の部分として、学生だけではなくて、事業を本当に今やっている方も大学との連携における技術的な課題のクリアができていくと非常に大きいと思います。ぜひ、大学との連携を進める上での最終的な成果物を出すということでSDGs マークの9番を大きく出してもいいと思います。

(会長) 大学については、もう少し踏み込んでもいいと思います。イノベーションという大げさかもしれませんが、様々な挑戦をすることと一緒に取り組めるような大学との連携を促していくことや稼ぐ能力を上げるための人材育成などそういったことをやりたいこととして書くべきだと思います。できたかどうかは、相手があることですからその時その時だと思いますが、もう一段踏み込んでいいと思います。私もコメント加えます。あと、給食の話は、委員からのご指摘の通り

で、天草の売りで魅力でもあります。市内では説明がされているかもしれませんが、もっともっと打ち出してもいい話だと思います。これは、移住政策から見ても世の中にとっては重要なことだと思いますし、違う感覚でみると、ふるさと納税でもアピールができることです。天草はしっかりと給食のことを考えていて取り組んでいて、給食では食材をきちんと選んでいる。このことは、天草製品のアピールとして給食で採用されているということをふるさと納税の返礼品としても安全なものとしてのアピールになると思います。そのような感覚で連携していくと、稼げる自治体としてのあり方としていいものが出てくるといいますから、ぜひそういったちょっとおまけですけども、ちゃんと選んでもらえていることです。ここだけを見ると学校給食のあり方になってしまいましたが、それだけではなく、そのようなことが基盤にあり総合的にアピールにつながるといいます。

(事務局) ご意見ありがとうございます。確かに天草特有、独自で「お魚給食」などに取り組んでおります。そういったことを含め、もう少し何らかの形で広くPRできるように検討をしていきたいと思っています。

(会長) ぜひ、いいものですから今後とも展開していければと思います。あと、成果指標は今後とも充実させていくことを意識していただきたいと思っています。実施計画を作るときには施策のアウトプット指標を見るみたいなことありましたが、直接アウトカムを見ることも出てくるといいます。直接アウトカムも考えるってことを施策計画の段階では意識していただくといいと思います。もう一つ、政策名のばらつきが気になります。事務局には全体調整をお願いしたいなと思います。それはいろんな意図がないとできないこともありますので、頭に何か言葉をつけるなど共通で考えていただくといいと思います。ですが、耳障りがいい言葉をつけるのではなく、抽象的にしてくださいでもなく、総合計画の意図があって、皆さんが自分ごととして取り組んでもらえるような観点から政策名をご検討していただければと思います。ばらつきがあるのはもちろん見ていただき、美しい日本語として調整していただければと思います。そのあたりは事務局でお願いいたします。

●「前期基本計画」：『政策１１～政策１６』

○事務局説明

(委員) ２点あります。まず、施策計画『豊かな里海の再生』で以前もご指摘しましたが、漁業者団体等が行う藻場の保全再生活動に対してっていうことの評価、成果指標として天草漁協の水揚げ量となっていますが、他県の船籍も入るので、この数値で評価してしまうと、再生できているかの判定にならないのではないのでしょうか。たとえば、五島沖や鹿児島島の南の方で獲ってきた分もカウントされてしまいます。あと、『天草の魚の魅力発信と漁村の活性化』の成果指標で市場の平均単価は、その市場の状況で変わってくるので、平均単価が今より下がらず、なおかつ売上高も成果指標にあるとわかりやすいと思います。売上高が下がって、水揚げ量が減ってくると平均単価は上がってきますが、ブランディングが適正かどうかというのが薄まるので、両方の観点で見たほうがいいと思いました。

(事務局) 里海再生では、藻場だけじゃなくて、種魚の放流なども行っています。指標としては、漁獲量の増加を目標としております。定量的なデータとして、農林水産

統計の市町村統計がありましたが、現在はないため定量的な判断ができるのが天草漁協の水揚げ量となります。地域の漁業以外の東シナ海などで獲られた分の水揚げにつきましても除いてデータとすることができますので、その部分を外して指標とさせていただくことを考えたいと思います。あと、水揚げ量のデータもいただくことができますので検討させていただきたいと思います。

(委員) 新商品開発に取り組んだ件数ですけれども、変更していただいております。この方が市の方も取り組んだ成果として出てくるとしており期待しているところです。一つ質問で、空き店舗利用件数で、新規事業者数の現状値が1事業所に対して、目標値が12事業所と記載されています。これは本当に達成できるのか、近づけるような数字か少し不安です。あまり数字に追われないようにすることが必要だと思いますが、もう少し下げてもいいと思ったところです。

(事務局) ご意見ありがとうございます。この12件は令和元年度から3年度まで、3年間の新規事業者の数を考慮し、目標値としてあげさせていただいております。実際、今おっしゃられたように空き店舗を使われる事業者さんというのは、その中でだいぶ数が少ない状況でもあります。件数についてはもう一回検討させていただこうかと思います。ありがとうございます。

(会長) 下げられるかどうかも含め、もう少し検討していただいてもいいかもしれません。いろいろな切り口で、新規事業者が見ているようですので。

(副会長) 特に経済産業部門ということで、これから作る計画は計画を作って終わりではなくて、計画作って、毎年毎年その計画に合わせていくみたいな、そういうアップデートの仕事がつかまとうと思います。そういう意味では、産業経済部門はその部分がすごく大事と思っています。不易流行の不易の部分がきちんと保全されて流行のところをきちんとアップデートをしていくということになっていくと思います。あと、SDGsのマークをつけているのが非常にわかりやすいですし、ぱっと見たときにこのマークがついているからこんなこともできるみたいなことがありますので。要望というかSDGsは戦略なので、こういうところをアピールして産業を盛り上げていきますや文化財×観光で、恩恵があるのは観光客だけではなくて、教育にも効果が高い、そういうのを含めて書いてもらったらと思いました。

(会長) SDGsは共通のことですので、横軸で見ながら検討いただきたいと思います。

(委員) 企業誘致等で若者の働く場というところですが、一般的な若者は当然ゲーム、アニメ、映像と思いますが、ただ社会課題を解決したいや物作りをやりたいなどもあると思います。若者と言っても、多様な方向性があると思いますので、このような分野も検討した中で、一番効率がいいというところからなのかをお伺いしたいなと思います。

(事務局) 今のコロナ禍で国の方もテレワークの交付金関係の予算も確保されているような状況で、仕事のあり方としてネット環境があればどこでも仕事ができるという企業、特にIT系の企業が今は多くあります。天草市においても昨年度はIT企業だけではなく、4事業者が進出をいただいております。今年度も3社、IT系・デジタル系の事業者さんが入っていただいている状況で、ここを切り口にしているところです。

(会長) いろんな意味で隙間に落ちやすいところをどう考えるかっていうのは、経済、産業、観光に限らない話ですけども。Uターン促進でもありますし、いろんな意味で若い人の働く場にもなるんですけども、特に高校生の時に何するのが結構重要だと思います。どうしても、こういう話は隙間に落ちやすいところで、小中は義務教育の範囲で市がしっかり見えていますし、高校は県立や私立となります。どうしても、高校で何するかが抜けやすいところです。ですが、逆に大学とかの方にも行くときには今はいわゆる探求学習をして、総合型選抜みたいな言い方をしますが、このようなことが定着し増えていっている傾向です。何がいたいかというと、高校のころにこの地域は何をしているのかが重要なポイントということです。高校生が起業するというと特殊なこと言っているみたいに聞こえるかもしれませんが、ものすごく大きいビジネスを起こすのではなく、自らがやるべきことをきちんと組織を興してなんらかの事業モデルを作って挑戦する、チャレンジシップみたいな感じで小さくやっているパターンもあります。もう、全国にはたくさんいます。そういう人たちが大学に行って、さらに活躍して、実は地元の企業に自分でやったことが残っているのでUターンしてくるという傾向も結構あると思います。高校生が何をするという部分をもっと意図的にテーマとしてもいいと思います。確かに企業を誘致して若い人の働く場を作るということもあります。Uターンやこの地域に仕事を自ら作りに戻ってくる、やっている仕事をもっともっと加速させるために来るということも今後は増えてくると思います。企業誘致等の「等」かもしれませんが、若い人たちが自分の仕事としてこの地域にちゃんと活動することを作るってことにももっと触れていただきたいと思います。どうしても、エアープocketみたいに隙間に落ちやすいテーマで、気づきにくくなりやすいところです。市の担当はどこだろうと曖昧にもなりやすい部分です。高校生たちが学校のプログラムや探求学習をやっていますそういう風に考えると一個のテーマになると思いました。

(事務局) 会長からお話がありましたように、高校生につきましては、高校生起業塾に取り組んでいます。今回で10回目の開催をしております。高校生が天草市内のことをよく知っていただく機会、起業するということの入り口として勉強してもらうという機会は作らせていただいています。年数を重ねるたびにいろんな課題が出てきていますので、やり方の検討、見直していかないと考えており、今回は入れてないような状況です。今回、『あまくさ未来創造スクール』を核としてという部分の記載を追記しておりますが、昨年度から天草市内の若手の経営者の方に天草の課題をビジネスチャンスとしてとらえていただき、新たな事業転換といいますか、事業拡大へ取り組んでいただくきっかけを作っています。未来創造スクールは発展させ、高校生でもこういったことができないかというお話も出ています。まだ検討する必要がありますので、その、UJターンのそういった方を含めて検討をしたいと思います。

(会長) ぜひ、お願いいたします。あの、もう、そういう面で見ると、いろいろ気づきになっていると言ったようにもちろんなっていると思いますし、今のように起業塾は確かに魅力的だと思います。そこが、将来のキャリアにつながっていくので、体験で終わらずに地域にしてみれば、そこをきっかけにキャリア形成につな

げ、ちゃんとリターンしてもらえるといいと思います。

●「前期基本計画」：『政策１７～政策３３』

○事務局説明

（副会長）先ほどから申し上げていますが、もう一度横ぐしで見るときに SDGs マークがやっぱり便利で、持続可能な天草の姿をどうやって描くかというときに SDGs のゴールマークが少ないことが気になります。

（会長）やっぱり狙いをもって塩梅感は意図してもらえればと思います。こういう意味でこのマークをつけたということをそれぞれの部門で考えられたと思いますけど、共通でこういう観点でつけてこうじゃないかみたいなことを部門長同士、企画部署の調整の元、やってもらえればと思います。

（委員）天草では、交通が問題だと思います。天草は、若者だけではなく、年老いた方がちゃんと集まって暮らせる。高齢の方のまち、高齢者のまち、という観点からも必要だと思います。公共交通のあり方っていうのは、例えば、７年後には、自動運転やいろんな形の未来のデザインがあると思います。この辺りももう少しデザインしてひとつの目玉になるのではないかと思います。やっぱり、強弱をつけるとしたら、この利便性のところだと思います。公共の交通だけに頼らない、例えば自動運転のあり方を徹底的に検討するや若者ではなく、高齢者の方の町と割り切ってもいいかもしれません。

（事務局）自動運転はまだ、現状具体的に計画の中で盛り込んでいくというのは、なかなか現段階では難しいと思っています。本年度、来年度から始まる地域公共交通計画を策定しており、その中で、天草市としては初めての取り組みでありますオンデマンドの乗り合いタクシーの実証事業というのを今、実証しております。現状、天草市の方針では、旧町間をつなぐ、例えば、本渡―牛深間とか、五和―一本渡間を結ぶ幹線は、バス経路を維持する。旧町の中はその実情に合わせて乗り合いタクシーなどの可能なところから実施しているところです。実証運行しておりますオンデマンドの乗り合いタクシーは予想よりも倍ぐらいの利用者数があり、路線バスの方を廃止して、オンデマンドの乗り合いタクシーっていう風な流れになっていくのかなと感じているところです。しかし、一方では課題もあり、利用者数のほとんどが高齢者の方で、スマホでの予約を大々的に押し出してはいますが、実施率は３％にも満たず、いまだに電話で予約をして乗り合いタクシーに乗るというようなところがあります。

（委員）おっしゃる通りだと思います。一番難しいと思うのでこう大学が必要かもしれません。スマート農業もそうだと思います。具体的に進めていくと、３年４年で変わっていくと思います。ほんとにオンデマンドから始めるというのは現実的ですし、逆に、そういう風なことを考えてらっしゃるっていうのも盛り込むも大切だと思います。

（委員）天草は、スポーツにいい場所だと思います。ただ、何でもできるという言い方よりは、一つ二つ突出するものをメインで出してもいいのではないかと思います。また、もし企業の誘致を考えたときによく言われるのが実はゴルフです。天草はものすごくやりやすい場所でもありますし、経営者がかなり好んでやっていると思います。あと、トライアスロンのひとつの、自転車です。サイクリストにとっ

て天草は最適な場所だとも思います。例えば、弱虫ペダルという映画のロケ地にもなっていて、まわりたいところナンバーワンにもなりました。上天草ですが。しかし、十三仏の方で最後のシーンは撮っているはずですが。ほかに、天草でのスポーツと言ったらマリンスポーツ、プレジャーボートです。船に乗りたいという経営者がかなりいらっしゃると思います。サッカーや野球、それから陸上もいいと思いますが、企業誘致といった観点からも考えていただくことも一つだと思います。

(会長) 今入っているスポーツとしての観点はどちらかというと健康や運動だと思います。あと、スポーツコミッションが加わるということです。委員からは産業、いわば、地域経済の基盤形成のうえでもスポーツは意味があるということだと思います。確かに、その観点見ていくと地域の魅力をより加速につながるかもしれませんが、ご検討いただければと思います。市民がスポーツをすることと思ってしまうですが、スポーツがいわゆる産業基盤になる。人々の地域基盤、まちづくりの基盤になると思いますので。

(委員) 地域福祉政策では、地域コミュニティが希薄化や孤立という言葉が出てきますが、子育て政策の課題や現状の中ではコミュニティの希薄化や孤立の目線がなかなか見えてこないと思ったところです。実は、妊娠から出産、子育てに関しても孤立は、かなり大きい問題です。地域福祉では、核家族や高齢者の世帯、ダブルケアの方など書いてありますが、孤立の問題のところ、ボランティアの登録団体数が72団体もありすごく多いと思いました。これだけの団体の人たちが天草の広い地域にどれぐらい点在してらっしゃるかというのは、地域間格差もあるかもしれませんが、孤立の解消へボランティアの人たちが声の掛け合いなど福祉としてはかなり大きなところだと思いました。このボランティア団体の中身というか、どのようにこの人たちの団体が地域の中で動いてくださっていて、しかも、地域がどのようにこの人たちとつながっているかが大事だと思っています。

(事務局) 成果指標で挙げているボランティア団体数、登録人数につきましては、社協が事務局となっているボランティア連絡協議会の方に登録されている団体数になります。これ以外にも自発的、日常的にボランティアをされている方、個人の方、団体の方も、相当数いらっしゃると思います。そういった方々につきましては、市民アンケートでボランティア活動の内容で把握したいと思っております。また、ボランティアを求められている方のマッチングをするようなことを社協の方で行っておりますので、そういったところでつなぐ役割をさせていただいている状況です。

●「前期基本計画」：『政策34～政策36』

○事務局説明

(会長) 今見返していて、資源循環の話し等が見えるところではありますけども、もう少しいろんな観点を加えていただいたのかなと思います。例えば、今回は海に浮かぶみたいな話しがメインに見えたところを色々チューニングしていただいたのかなと思います。このありがたい姿と言いますかこの政策に限定したことでなく、全体的な話になりますが、事務局へのお願いとしてレイアウトの工夫がもう少し欲しいというところです。あと、政策ごとにきちんとありがたい姿を書いたいただきたいと思います。一体この政策は、何のありがたい姿の実現を目指しているの

かが、関連する方は見えていますが、政策のページ開くとどのありがたい姿目指しているかが分からないので。

(事務局) 見やすさも含めたところで、レイアウトを考えてみたいと思います。

(副会長) この理念は、私の中ではやはり3プラス1 プラス1 みたいな、もしくは3 プラス1 を全部やるのが挑み続ける行政というイメージです。自然と共生するまちとなった途端に実感が湧きにくいついていうか、市民の方からすると天草全体の話になるから我が事感が欠けると思います。4つ目の自然で共生するまちという理念を上3つでどう絡めていくのかっていうのは、戦略的に考えないと難しいと思います。だからここには全部がかかっているわけです。最後の整える段階なので意識的にまとめていく方向でやっていただけたらと思いました。

(会長) どうしても全て自然に関わるし、逆に自然なことが良いことだと思いがちですが、今のように色々なことを上手く、影響が出来るようなものとして位置付けてくことは重要だと思います。何かもう一歩欲しい感が少しありますね。例えば、スポーツの話で天草としての産業系を色々考えていく上では林業など直接的な自然を生かした産業があると思うのですが、観光もそうですし、関連する意味合いが他よりも濃いと思います。特に、どうしても自然の話はそれこそ重要な基盤なので、その部分だけで見ると分かりにくいと思います。他のところに影響する産業や教育などでももう少し何かそれぞれの書きぶりができないかと思います。

(副会長) 海に浮かぶ博物館天草がつながるかもしれません。この取り組みは天草の2市1町でやりますということが明確に書いてあり、天草市の総合計画で市外のことをどのように記載するのが少し悩みのタネですが、あえて言えば、他市町との連携みたいなことで書くといいのかなと思います。産業では、普通に越境していますが、天草市の範囲で書きがちです。ちょうどいいことに海に浮かぶ博物館構想は越境しています。そういうところを売りにし、環境だから切れ目がなくていいという感じで読めるかもしれないと思いました。項目が少ないのですが、ここは外部連携も必要なのでこう書いていますといったみたいなことを書けるといいのかもしれません。

(委員) 今と関連する内容ですが、例えば、自然資源を活用した地域の魅力向上で施策名ですが、今の色々な発言をこう伺いながら思いついたのが、自然資源を活用した天草は1つ。魅力向上。ということで表現もあると思いました。そういうところがあれば、地域を超えた天草2市1町で出来るので。天草市から飛び出すような表現でも良いかなと思いました。

(会長) これまでの話で、自然は色々な意味で天草の魅力だと思います。色々なことに皆さんが取り組む状況を作っていくことが必要で、この部門の範囲で考えたらこういうことだと思いますが、もう少し産業系や教育に繋がるなど、そういった意味でオーダーマックとして何かに取り組むようなことにも向かっていくと思いますのでご検討いただければと思います。もう少しほかとの連携性で書いてもいいと思いますし、関連政策の意味合いをもう少し明確にするのもいいかなと思いますので。今はそれぞれの特色あるところをまた整えていただいたところですので、説明力も上がってきていると思います。更なるブラッシュアップお願い出来ればと思います。

●「前期基本計画」：『政策３７～政策４０』

○事務局説明

（会長）今議論しているのは、総合計画の基本計画で目指す指標ですけれども、この後はさらに行政経営改革大綱で追及することになってきます。この審議会では、総合計画ではこういう方向性を目指しつつ、行政経営改革大綱ではこのことを具体的に何するかってことをもっと細かく示していくことになります。市役所の計画として行政経営、改革の議論をするということになります。ですので、その目指すところの方向はこれでいいのかということも改めてここで見ていただければと思います。これまでは、地域の姿や市民の生活といったところで、この部分は市役所という組織の経営に関すること、ないしは働き方に関すること、そこで使う資源や財政、施設に関することですので、これまでと切り口は違います。良い条件があればあるほど、活力ある市の実現、支援の状態が良くなるということになると思いますので、この観点も重要な議論になると思います。

（副会長）私も今回の計画の肝の部分と思っています。特に、自分たちでやって、自分たちでこう良い方に持っていつているということを書くことはなかなか難しく、ストックに厳しくやっていくというのは出来ると思いますが。ぜひ職員のことをきちんと書いてほしいと思います。なかなか自分で自分を褒めるということは難しいのですが。何が言いたいのかと言うと、成果指標名のところで、業務に対してやりがいを感じているとあります。要は職員に対してアンケートで割合を聞いています。私はぜひ、市民の人が市役所をどれだけ信頼しているのかみたいなことも聞けないかなと思っていて。それは、市民の方の教育としても大事と思っています。これまでのアンケートは、何か文句を言う人ばかりのことを聞いているような印象があって、もっと何か褒める練習をした方が良いのではないかなと思っています。当たり前かもしれないけど、あなたは市役所職員を信頼していますかみたいな問いで、当たり前のように１００％が出ることが大事ではないかなと思います。逆の聞き方として、天草市役所に対して不信感ありますか、とか言ったら、そういう項目だったら何となくつけてしまいたく、したくなります。そうではなく、天草市役所の職員の皆さんが市民からきちんと信頼されていると逆の意味のシビックプライドを持てるようなですね。そういう数字をこれからは取ってもいいかもしれません。提案です。

（事務局）今回、ありがたい姿の実感度を測ることとしており、この挑み続ける行政経営に取り組むまちの部分についても市民アンケートで測っていくこととしております。また、庁内でも連携取りながら、何らかの形で取れればということで考えていきたいと思っています。

（会長）挑み続けるというところが結構重要なことです。それがこうありがたい姿として言っているところが政策となった時に挑み続けるがどこにあるのだろうという気がします。市民に対して挑み続けよう、こういうことを考えているということ結構伝えていますが。今回がきちんと市民の皆さんへも言わないといけなタイミングだと思います。何故なら、市民の皆さんにもお願いしますということ言いつつ、行政も挑戦するということ言おうとしているわけですから。そうすると挑み続ける度合いがすごく弱いという気が正直していて。色んな切り口がある

ところで、決してキャッチフレーズではないのですが確認したいところです。例えば、前回のところでも繋がりのための対話やファシリテーター、ファシリテーションなどどういう場を作るかが必要だと思います。市職員にとって色々な求められる能力がどんどん変わってくるとこあるわけです。そういう対話促進をすることや、そういうことに対して市職員もどんどん挑戦していくことが必要になってきます。職員能力という見方かもしれませんが、そう言うことに対して仕組みをきちんと整えていくことも大切です。自分事とみんな事みたいなことで、みんなで繋がり、挑戦していくという時に市職員がどう動けるかってことが結構重要なはず。そういった意味での挑み続けるということを検討してほしいと前回は話をしたと思います。あと、地域のために活動することは、市役所の職員として本業としてやっていますが、副業として、地域のために働くってことはがこれからの市職員が挑戦出来るように本来はした方がいいと思います。世の中は、そういう流れになっています。公務員の副業というお金を稼ぐ方に聞こえてしまっていますが、そうではなく複数の色んな業をやる時代になってきたということです。挑戦する、挑み続けるってことが時代とともに本当に必要となってきました。もっともっと出していないといけないと思います。結局オーソドックスに行政は今まで通りやりますという内容になってくると、地域には挑戦するなど色々なことを求めながら、行政はオーソドックスになってしまうとすごくもったいないなって思います。あと、組織力と職員の話は別の話ということも話をしたと思います。とは言え、まだ1つのままです。組織としてやることと、1人1人の職員が挑み続けるってことは、若干切り口が違っていて、人材育成という、組織や業務のために育成をしているように見えますが、今求められるのは、働き甲斐とやり甲斐は全然違って、今は、業務のやり甲斐の数字を取っていますが、仕事に対してきちんと貢献が出来ているかといくことを求めている感じがします。そうではなく、この組織に所属して、自分は成長していることを実感し、いい地域になっていることを実感出来るからこそ、働き甲斐が上がってくることになるわけです。そういったように、個人個人がきちんと働き甲斐を持って、挑戦が出来る状況にあるかどうかが重要な切り口だと、以前もお話したと思います。そういう意味では、働き甲斐を高めるための職員力をどう考えているかが、重要な観点だと思います。挑戦すると挑むということは、今、象徴的なことはいくつか言ったに過ぎませんが、本来はもっと書くべきではないかと感じています。

(事務局) まず、対話のことにつきましては、効率的かつ効果的な行政運営の政策計画1の中で、民間事業者と連携によってサービスの向上と記載しております。このところにつきましては、今後 PFI や PPP といったところにも、ソフト部分だけでなく、まちづくりの中やその施設を作るという中でも民間事業者との連携を図っていく必要があるということで記載しております。これまで私たちはそういったことに全くといっていいほど取り組んでいないところでしたので、まずはそういったところから始めていこうということで新たに付け加えをさせていただきました。下にも今までは市民の意見をということだったので、事業者の方々ともお話をしていかなければならないと考え追記を行いました。行政だけで

はどうしても限界がありますので、事業者の方々にも投資をしていただく。まちづくりにも投資をしていただくという働きかけも行っていくべきではないかと考え、事業者を付け加えさせていただきました。私たちは行政職員だけの中にとどまることじゃなく、事業者、いわゆる民間企業の方々とも一緒に取り組んでいかなければいけないと考えています。ここに挑み続ける行政経営として挑み取り組んでいくということを考えています。組織力、職員力の強化につきましては、確かに前回も分けた方がいいというお話しをいただいたところです。私たちも組織をどうやって強くしていくか、いわゆるワンチームになってどうやっていくかというところがあります。先ほどもありましたとおり、人材育成の中に働き甲斐を持っているということを書かせていただきましたけども、確かに、個人1人1人が頑張るという気持ちの持ち方もありますが、やはり組織として、上司や仲間理解をえなければ、ここの働き甲斐が持てないと考えております。ということは、やはり、組織と一緒にやっての職員を考えたいと思っております。組織がまとまっていくことによって職員力も上がってくるので、ここはセットで見せた方がいいと考え変更を行っておりません。副業に関しても取り組みを今始めたところです。行政の殻にとどまらず、副業の中で色んな民間の動きを感じることが出来ますし、民間の経営っていう部分も必然と学べるということから副業にも取り組んでいきたいということで考えています。ただ制度設計の中で、行政はどうしても法令や条例に縛られてしまいますので、その設定についてどういう設定が必要なのか検討を進めております。それがまとまり次第、副業ということが記載できると思います。総合計画につきましては、今後も毎年見直しを行い、必要ならば改定を行うこととしております。

(副会長) 1点だけいいですか。すぐにでもやれそうなことという職員の人材育成になると思いますが、言葉が上から目線です。そうではなく、個人がどう学ぶのかという、要は職員の学び方改革みたいな感じの項目にすればいいのと思います。副業の話しも出ていましたけど、若い職員さんであればどれだけ公民連携に対してやってみたいという意欲や、副業にチャレンジしてみたいと思っているかもしれません。ある程度管理職の方になったら、セカンドライフに対してどれだけ意欲があるや、民間でも頑張ってやりたいと思っていると高い意識を持てているということになると思います。要は、個人の方のその意識の持ち方みたいなことをきちんとやれば面白いと思いました。そういった意欲のある職員さんがたくさんいれば、市民からの信頼も高くなるし、やはり市役所の職員だと言ってもらえるようになると思います。学びという部分を書いた方が良くて、組織力、職員力だと上から管理しやすいような人材育成をしますみたいな感じとして捉えられるので、そうではなく、上と下から両方が噛み合っているというような書き方をすればいいと思いました。

(会長) それぞれが内発的に挑戦していくことが、挑み続けることだと思います。こういうことに学んでみたいという気持ちを持って挑戦が出来ているかどうか重要な要素です。人の集団であって1人1人がいての組織ですから、そういう1人1人がきちんと挑戦が出来ると思えるかどうか重要な要素だと思います。当事者なので、確実にやることを書くだけではなく、今後の検討テーマになるようなことも

現状課題として出し、挑戦していくことが必要だと思います。別項目を起こしていただいてもいいと思います。でないと、今のよう副業みたいな話や学び方改革みたいな話はまだ決まってないから書けないということですが、そういうことを検討してみたいということを経営の内部の話として挙げていただくのはありだと思います。同様に、対話のことやファシリテーションのスキルは、研修だけではなく実践的にことが必要になってきますので、そういったことを見据えた職員育成にも挑戦してみたいなどを書かれてもいいと思います。やってみたいことを書いて、考えてみたけど無理でしたでもいいと思います。そうでないと絵も書けないし、様子見になってしまうので、志しを書いていただいた方がいいと思います。そうすると市民が逆に安心感や期待感が持てると思います。結局、市がやることはオーソドックスに業務はしくしくとやるとしか言っていない。でも、市民にはやれと言っているみたいに見えるのも寂しいですし、本当は違うことを考えている方々が市役所にはいるので。その辺をご検討いただければと思います。

(事務局) 本当に若い人たちは色んなことを考えていますが、それを私たちが目を潰しているかもしれないというところがたまにあたりします。そういった自主性をいかに尊重しながらも、組織力は必要で、突拍子のないと言いますか、はみ出たことはしない、期律は守りつつそういったことが出来る職員がどんどん出てくるのが大切だと感じております。そのような職員が社会に十分に対応出来る職員になると思いますので。研究などそのような雰囲気なら書けるといいますので再度検討させていただきたいと思います。

(会長) もちろん責任感を持って、着実にやることは市職員の重要な要素で、そこに意識があることは重要なことですが、どういう志しがあるのを出すことだと思います。確かに色々と出来なかったらどうなんだと言われることが気になるかもしれませんが、場合によってはこれも参考みたいなかたちで、審議会の提言として、加えといていただいてもいいと思います。計画としてやるのではなく、挑み続ける行政のためにはこういうことをぜひ検討してくださいと。もう1点、指標が微妙、絶妙っていうとあれですけど、微妙な感じがいくつかあります。もちろん直接アウトカムがメインになっているということは1つですけど。例えば、デジタル技術が活用した業務改善数がありますが、出来そうなことをいっている感じが正直しています。やりたいことは業務効率が上がったかどうかやこう目指すこととして挑戦したいことがもっと見える方がいいと思います。やることとして、指標だけを眺めるとデジタル技術を活用して業務改善が何個出来たらいいと言われると、言えば何個も出来てしまうという感じですけども、結局は追求したいことは何なのかが指標から分かりにくかったりします。業務へのやりがいも同じような気がしましたし、ふるさと納税の金額でも天草市はもっとポテンシャル持ってあるはずなのにこれでいいのですかと逆に思うところです。なかなか先読めないところもありますけども。この市の規模で、これだけの資源もたくさんあり、事業者たちの熱い思いが色々ある中で、戦略的にやればまだまだいけるところが現状維持みたいな数字になっているので。全体的にもったいないという感じがします。もちろん行革の議論の中で、中身が本当に出てくるかもしれませんが、

その辺り指標の全体的に見直しと目標の取り方を検討していただくと思います。

(事務局) ふるさと納税につきましては、令和2年度が16億1000万円となります。以前は6億だったので、それから16億に増えて2年続いている状況にあります。確かにポテンシャルは高いと思います。全国的に寄付額が伸びているので、全国的な伸びに合わせてまだ伸びる余地はあると思っています。そういった中で20億というような設定はしているところです。

(会長) たしかに、財政課がふるさと納税の作戦立てをして事業者にももちろん願います分はあると思いますが、色んな展開する場合は、実は役割としては限界あると思います。そういうこと考えるそもそもこの辺りをもっと目指そうという数字を上げていくことで、担当する体制も変えるべきかもしれません。今は多くの自治体がそのように変わってきています。私が天草を知らないわけでもなく、全国的なことを見ていると本当はこれだけの素材があるところで、こういう地域の力があって、さらに納税的なインパクトを考えたら、非常にもったいない状況にあると思います。もっと良い体制を整えていただくと、この金額は上がると思います。場合によっては、そこに対してお支払いもしていくみたいなやり方をすれば、インパクトをもたらせると思います。企業版ふるさと納税もあったりしますし、色んなアプローチで多角的に出来るとこだと思います。皆さんがダメと言っているのではなく、体制づくりからして考えると本当はまだいけるとしています。地域によっては、大学づくりのお金は、企業版ふるさと納税でやりますみたいなこと言っている地域もあります。お金がかかるから出来ないではなく、お金を確保しながら、連携体制を企業と組みながらやっていくということを堂々とされています。そうすると企業から人も出してもらえます。

それでは、審議にご協力いただき、ありがとうございました。今回は第3次総合計画の策定について素案を確認させていただきました。一通り説明いただきましたが、振り返りをしまして何か改めて言っておきたいこととか、お話しときたいこととか何かございますか。

(委員) パブリックコメントでの内容っていうのは、どういう風に反映させていく形になるのですか。

(事務局) パブリックコメントは8月17日から9月7日までに行っております。その中で、2人から合わせて10数件いただいております。所管課におきまして意見を確認し、計画の中に反映できるものは反映させているところです。反映が出来ないということもありますが、それには反映できなかったということを含めてお返しをするということにいたしているところです。

(会長) すでにいただいた内容は反映されて今日の素案になっているということです。既にそれぞれの担当部署でもご検討いただいて、素案に反映していただいて、審議会としては、前の審議会で意見を見ていただき、今回はその内容を反映させた素案を検討したという審議の順番になっています。

(2) 第3次天草市総合計画の答申について

○事務局説明

(会長) 整理させていただくと、今日の議論がまだ反映できてないのが、現在の素案にな

ります。もう少し検討してもらいたいという内容があったと思います。また、再度確認されたあとに、委員の皆さんから何かございましたら今いただいた提案ですと12月12日、1週間後の来週水曜日までに、メール等でご指摘いただくということです。その上で修正したものが出来上がることになります。その素案につきましては、文言の修正や反映することがあったときに再度皆さんに集まっていただくということには限界があると思いますし、個別に聞くのも悩ましいと思いますので、会長の方に確認させていただくということで進めさせていただきたいというご提案だと思います。その方針についてご審議しておきたいということになります。少なくともばらつきを調整することは必要だと思いますので。よろしければ、会長一任ということも併せてご理解をいただければと思います。皆さんにご確認させていただき、何かご意見ございますか。

(会長) では、その方針で進めさせてよろしいでしょうか。ありがとうございます。
それでは、これで終了したいと思います。

以上